

《資料》

経営基礎ゼミナールⅠの授業実施報告

—— 経営学科の初年次科目の取り組みについて ——

藤 野 真

目 次

- I はじめに
 - II 授業の概要
 - III 経営基礎ゼミナール改正の経緯
 - IV 経営基礎ゼミナールⅠの授業実践
 - V おわりに
- 資料

I はじめに

この資料は、2021年度に商学部経営学科の「経営基礎ゼミナールⅠ（以下、「基礎ゼミⅠ」）」における授業実践に関する報告である。この資料は、高校から大学を架橋する入門科目の授業実践の共有を通じ、少しでもこれらと類似する科目へ知見を提供することを目的としている。

II 授業の概要

経営学科のゼミナール形式の初年次教育は「経営基礎ゼミナールⅠ」と「経営基礎ゼミナールⅡ（以下、「基礎ゼミⅡ」）」が設置されている。

基礎ゼミⅠは、高大接続を意識しながら、経営学科の学びの導入科目とし

てアカデミックな内容と学びの技術を教えることを目的とした科目であり、基礎ゼミⅡは、「アカデミックライティング」「アントレプレナーシップ」「ビジネス・フレームワーク」「経営財務分析」「量的研究法」「質的研究法」¹⁾といった上位年次の学びへの誘いを目的とした科目である。

基礎ゼミⅠは、1年前期に開講される経営学科の専門科目（選択）である。必修・選択の区分は選択科目であるが、この科目は高校（高校教育）から大学（大学教育）へのスムーズな移行を目的としている科目であるため、履修登録において事前登録を行っている。したがって、経営学科の1年生ほぼ全員が履修する科目として運用されている（商学部には、「会計専門職プログラム」が設置されている。経営学科には入試の段階でプログラム生として入学している学生が20名程度いる。プログラム生は、プログラムの趣旨に鑑み、プログラム生対象の基礎ゼミⅠを受講することになっている）。

基礎ゼミⅡは、1年後期に開講される専門科目（選択）である。基礎ゼミⅡは学生の興味・関心に応じて自由に履修できる運用にしている。基礎ゼミⅡの2021年度の履修者は74名であった。

Ⅲ 経営基礎ゼミナール改正の経緯

経営学科は経営系列と会計系列に大別される。経営系列は、2020年度（2021年度入学生から適用）に大幅なカリキュラム改正を実施した。

今回の改正のポイントの一つ目は、経営学の教育体系の標準化の進展に応

1) 「アカデミックライティング」「アントレプレナーシップ」「ビジネス・フレームワーク」「経営財務分析」「量的研究法」「質的研究法」は2021年度の実績による。基礎ゼミⅡのサブタイトルは、担当者の専門に応じて変更される。基礎ゼミⅡも、アクティブ・ラーニングやPBLを取り入れたクラス運営が推奨されている。

経営学科はアクティブ・ラーニングを「学生の学びなどの『外化』が行われる授業運営のことを指すこととする。たとえば、ミニツッペーパーの提出とそれへのフィードバックやディスカッション、発表などが行われる授業はアクティブ・ラーニング型授業とする。」と定義している（2021年11月27日商学部教授会資料）。

じて経営系列の科目の見直しを行なったことにある²⁾。改正のポイントの二つ目は、初年次教育科目の見直しを行なったことにある。大学生の大学への適応や学修面での成功（ここでは経営学への興味・関心の醸成と学修の深化）は、移行期の教育のあり方が大きく影響するということが明らかになっている。移行期すなわち初年次教育の重要性を鑑み、経営基礎ゼミナール（旧カリキュラム）に代わり基礎ゼミⅠと基礎ゼミⅡを置くこととした。今回の改正において経営学科の基本的なカリキュラムが完成することとなった³⁾。

Ⅳ 経営基礎ゼミナールⅠの授業実践

授業計画について

基礎ゼミⅠでは、初回に提示される「下記の企業のうち一つを選んで、その企業の経営分析をしてください。ただし、その企業が発表している財務諸表のデータを用いて論じること。」という課題の作成を通じ、大学で必要とされる学びと学びの技術を修得することができるような授業設計を行なった（図表1）。

2) 今回の経営系列のカリキュラム改正のポイントの一つ目の要点は以下の通りである。

近年、経営学は教育体系の標準化が進展している。経営学科のカリキュラム・ポリシーで表されている区分に大きな変更はないものの、科目の重みや順序性は変化している。したがって、今回のカリキュラム改正では、カリキュラムを経営学の標準的な教育体系へ再編することとした。経営学の研究および教育の中核を構成する「経営戦略論」・「経営組織論」・「経営心理学」は配当年次を1年次とするとともに選択科目から選択必修科目へ必選区分の変更を行った。

経営学研究は「科学知アプローチ（仮説検証型の実証研究）」が支配的なアプローチになっている。研究の知見に基づいて経営学教育が行われるため、学部教育において数学および統計学を学修することが極めて重要になっている。また、社会（起業や企業における職務遂行）においても数学・統計に関する知識・理解や技能がこれまで以上に求められるようになってきている。したがって、「商学のための数学・統計学Ⅰ」・「商学のための数学・統計学Ⅱ」の必選区分を選択科目から選択必修科目に変更するとともに「商学のための数学」・「商学のための統計学」に科目名称の変更を行った。

3) 会計系列は2016年に大幅なカリキュラム改正を実施している。

図表 1 授業計画

回数	授業計画	備考
1	スタートアップ授業	企業分析（課題）の説明とシラバスの説明。
2	アイスブレイクとワーク	宿題 ・チームの宿題…チームメンバーの自己紹介スライドの作成。 ・個人の宿題…分析対象企業の情報収集。
3	分析企業ワーク(1)…一次資料・二次資料を用いて企業分析を行う。 ・2回目の宿題をもとに(1)分析対象企業の情報の整理, (2)分析企業の着眼点の提示と比較, (3)5社の比較と「問い」のワーク。	宿題 ・チームの宿題…5社比較に関する気づきの整理。 ・個人の宿題…経営分析のための概念や用語の予習（動画の視聴）。
4	図書館利用説明会…図書館での資料収集方法を学ぶ。 ・図書館の書籍や資料, データベースを利用できるようになる。 ・多要素認証, Office365を利用できるようになる。	宿題 ・個人の宿題（任意）…「図書館で本を借りて本の紹介を作成する」。
5	分析企業ワーク(2)…課題に関するプレゼン資料の作成について学ぶ。 ・プレゼンの構成・章立てを考えられるようになる。 ・Office365の共同編集ができるようになる。	宿題 ・チームの宿題…プレゼン資料の作成。 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー（Microsoft Forms）の提出。
6	分析企業ワーク(3)…プレゼンの内容について事実と感想を区分することを学ぶ。 ・事実と感想について区分できるようになる。 ・注を入れられるようになる。	宿題 ・チームの宿題…プレゼン資料のブラッシュアップ。 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー（Microsoft Forms）の提出。
7	分析企業ワーク(4)…「問いを立てる」「論じる」ことを学ぶ。 ・「問い」があるプレゼン, プレゼンを通じて「論じる」ことができるようになる。	宿題 ・チームの宿題…プレゼン資料のブラッシュアップ。 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー（Microsoft Forms）の提出。

図表 1 つ づ き

回数	授業計画	備考
8	博報堂講座「価値 (What to say) の発見のしかた」(1) ⁴⁾ …「価値」を発見することを学ぶ。 ・事実を紐解いて「価値」を発見できるようになる。	宿題 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。
9	博報堂講座「価値の発見とコミュニケーション (How to say) 実践事例」(2)…発見した価値を「情報」として届けることを学ぶ。 ・「価値」あることを「情報」として伝えられるようになる。	宿題 ・チームの宿題…プレゼン資料の作成と提出。 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。
10	分析企業ワーク(5)…プレゼンの講評会。 ・教員が選定した優秀プレゼンに対するコメントを参考に自チームのプレゼンを見直す。	宿題 ・チームの宿題…プレゼンを録画 (Zoom) し提出する。 ・個人の宿題(1)…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。 ・個人の宿題(2)…レポート課題の提出。
11	レポート改善ワークショップ(1) ⁵⁾ …レポートの作成について学ぶ。 ・レポートを作成できるようになる。	宿題 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。
12	博報堂講座「価値の言葉化」(3)…価値を伝えるときの「言葉」について学ぶ。 ・キャッチコピーを考えることを通じて「価値」を「言葉」で表現できるようになる。	宿題 ・個人の宿題…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。
13	レポート改善ワークショップ(2)…レポートの作成について学ぶ。 ・パラグラフライティングができるようになる。	宿題 ・個人の宿題(1)…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。 ・個人の宿題(2)…レポート課題(ブラッシュアップ版)の提出。
14	経営基礎ゼミナールⅡの説明会	宿題 ・個人の宿題(1)…ミニッツ・ペーパー (Microsoft Forms) の提出。
15	まとめ	

4) 博報堂講座は、株式会社九州博報堂様にご協力をいただきました。

5) レポート改善ワークショップは教育開発支援機構の鈴木学准教授にご協力をいただきました。

経営基礎ゼミナール I の特徴(1) — シラバスの共通化について

基礎ゼミ I では、シラバスの共通化を行なった。旧基礎ゼミは科目担当者が、初年次教育であるとの共通理解のもと、それぞれが最適と考えるシラバスを作成し、授業を実施してきた。旧基礎ゼミは、大学で必要とされる文献の読解や、レポートの作成といったことが教えられていたものの、クラスによりどうしても学んだことの「揺れ」が生じていた。このことは、2年後期以降のゼミナール（2年専門ゼミナール、3年専門ゼミナール I・II、論文ゼミナール）において「旧基礎ゼミで教えてもらえなかった」「旧基礎ゼミでは聞いていない」などといった学生の反応の原因になっていた。また、旧基礎ゼミでどのようなことが教えられていたかということを科目担当者以外が知るができなかったため、学生のそのような反応の真偽を判断することが困難であった。そのため、2年専門ゼミナールで再度旧基礎ゼミで教えられていたであろうことをフォローアップする必要が生じていた。そこで、経営学科では学科の学生であれば全員が学んでいる知識や技能を初年次教育で教授することとした。

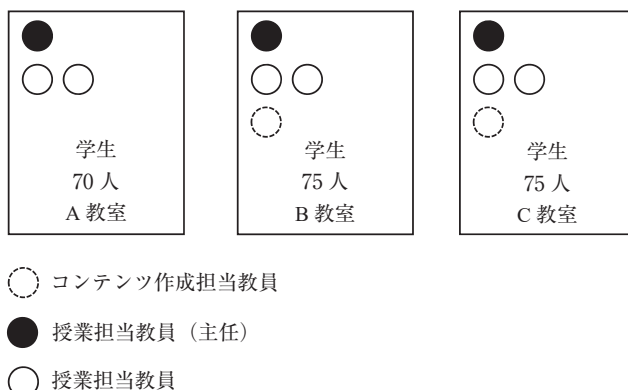
経営基礎ゼミナール I の特徴(2) — 教員の役割分担について

基礎ゼミ I では、チームティーチングを実施した。旧基礎ゼミでは、教員 1 名、学生約 20 名という組み合わせでゼミを行なっていた。それを基礎ゼミ I では、図表 2 のように教員 4 人と学生約 75 名、教員 4 人と学生約 75 名、教員 3 人と学生約 70 名のクラスに再編成した⁶⁾。

また、授業運営においてそれぞれの教員は、「コンテンツ作成担当教員」、「授業担当教員（主任）」「授業担当教員」という役割分担を行なった。コンテンツ作成担当教員は基礎ゼミ I の授業計画の作成と基礎ゼミ全体のマネジ

6) 3クラスに編成したのは、教室の収容定員や設備の制約による。設備の制約によってはクラス分けの方法が変更される可能性がある。

図表2 教員と学生の教室配置



メントを担当した。具体的には、シラバスの考案、授業で使用するパワーポイントや宿題（時間外学習）の作成、宿題へのフィードバック、成績評価に関する課題の出題・管理、受講生への連絡、授業補助、成績評価に関する課題の採点⁷⁾などを担当した。授業担当教員（主任）は、個別の教室の授業運営を担当した。具体的には授業の実施や授業のファシリテーション、成績評価に関する課題の採点などを担当した。授業担当教員は、授業補助を担当した。具体的にはグループワークのファシリテーションや質問への対応、成績評価に関する課題の採点などを担当した。

今回のような役割分担を行なったことで、各教員は自身の役割に専念できるようになったことに加え、複数人の教員が相談しながら授業を運営できるようになった⁸⁾。また、役割分担の結果、授業準備や授業運営の効率が上が

7) コンテンツ作成担当教員は、レポート課題の採点人数を5名程度とした。本来、コンテンツ作成担当教員が担当すべき学生の採点は、授業担当教員（主任）、授業担当教員が按分して採点を担当した。

8) 後述するが、授業が学期の途中から遠隔授業に切り替わった際に、課外学習用の教材を作成できたのも、授業における役割分担がそれを可能にしたと考えている。

がったため、基礎ゼミ I 担当の教員数を削減することができた。2021 年度は 11 名の教員が担当していたが、2022 年度は 8 名の教員で基礎ゼミ I を運営する予定である。

経営基礎ゼミナール I の特徴(3)ー採点基準の統一について

基礎ゼミ I では採点基準の統一化を行なった。基礎ゼミ I の成績評価方法は、シラバスにおいて「(1)レポート課題 (約 3000 字) = 60%, (2)ミニッツ・ペーパー = 20%, (3)グループワークへの積極的な参加など平常点 = 20% を総合して行い、60 点以上を合格とします。」と公開されている。基礎ゼミ I は共通の成績評価基準に基づいて成績評価を行うが、個々の学生の成績評価は 11 名の教員によって分担される。したがって、基礎ゼミ I では成績評価の統一性・公平性を担保するため、レポート課題の評価は「ルーブリック評価 (図表 3)」を利用して実施した⁹⁾。

ミニッツ・ペーパーとグループワークへの積極的な参加など平常点の採点は、コンテンツ作成担当教員 2 名が代表して行なうことで成績評価の統一性・公平性を担保した。

経営基礎ゼミナール I の特徴(4)ーコロナ禍における対応について

2021 年度は、新型コロナウイルスが一段落するかのような状況にあり、4 回目 (スタートアップ授業を除けば 3 回) までは対面授業を実施することができた。しかし、4 月下旬から感染状況が悪化したため、5 回目からは授業形態が遠隔授業に変更された。

9) レポート課題のルーブリック評価 (図表 3) は学生にも公開している。レポートは 2 度提出する機会を設けている。一度目は自分なりに作成したものを提出し、二度目はレポート改善ワークショップ受講後に一度目のブラッシュアップ版を提出する。ルーブリック評価はブラッシュアップ版作成の参考資料として学生に公開している。

図表3 レポート課題のルーブリック評価
経営基礎ゼミナールⅠレポート課題の評価基準（ルーブリック評価）

	大変優れている	できている	やや不十分である	全く不十分である
主張の提示	1) 分析対象企業経営分析として、データの分析結果の主張ができています。2) 序章が授業(7/14日)の内容に沿って書かれている。3) 序章で示した問いにたいして結論で答えを示している。20点	左記の「主張の提示」の基準1), 2), 3)のいずれかに若干の間違いや、文章構成の不備がみられるものの、そのほとんどを満たしている。15点	左記の「主張の提示」の基準1), 2), 3)のいずれかに不備がみられるものの、そのどれかの点については基準を満たしている。10点	左記の「主張の提示」の基準1), 2), 3)のどれも満たしていない。5点
論拠提示	信頼できる論拠(対象企業が提示している資料など信頼できる一次資料や一次資料を編集・整理した資料など二次資料)が示されており、論拠としての関連性も高い。20点	信頼できる論拠が示されているが、関連性のある論拠がやや足りない。15点	信頼できる論拠が示されているが、関連性がほとんどない。10点	論拠がほとんど、あるいはまったく示されていない。5点
論理構成	1) 主張に対して適切な論拠を示している。序論-本論-結論の構成になっている。2) パラグラフライティングができています。10点	左記の「論理構成」の基準1), 2)が意識されているものの全体の構成に違和感がある。7点	左記の「論理構成」の基準1), 2)のいずれかに明らか不備がある。4点	左記の「論理構成」の基準1), 2)のどれも満たしていない。1点
形式要件	1) 鈴木先生の提示したレポート8カ条を満たしている(8個とも満たしている)。2) レポート8カ条のうち7月14日のレポートに関する説明のpptにあるレポートの形式要件を満たしている。10点	左記の「形式要件」の基準1), 2)のいずれかに若干の間違いや、文章構成の不備がみられるものの、そのほとんどを満たしている。7点	左記の「形式要件」の基準1), 2)のいずれかに不備がみられるものの、そのどれかの点については基準を満たしている。4点	左記の「形式要件」の基準1), 2)のいずれも満たしていない。1点

* 剽窃について…剽窃は他人の文章を、出所を明記せず自分のレポートに記載することをいいます。それは文章の一部分であっても出所を明記しない場合は剽窃となります。剽窃をした場合、評価は0点になります。また、剽窃をした事実は経営学科の教員全員に周知されます。剽窃に対する扱いがこのような重大なものになるのは、剽窃がそれほど重い行為だからです。

図表4 「ザ・マジオ」



遠隔授業となり、授業の前後での質問の機会が減少したり、学生のモチベーションの低下などが生じる可能性が予想されたため、基礎ゼミⅠでは、「ザ・マジオ（図表4）」というラジオ形式の課外学習用教材を作成した。

「ザ・マジオ」はコンテンツ作成担当教員2名によって作成された約50分/各回の音声のコンテンツである。毎週金曜日に配信される「ザ・マジオ」では、授業の内容の解題や補足説明、ミニッツ・ペーパーへのフィードバックなどを行なった。

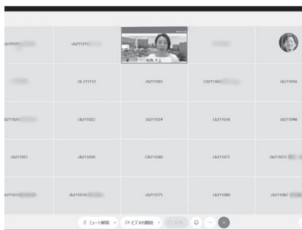
学生には、翌週の授業（水曜日3限）までに時間外学習として「ザ・マジオ」を視聴するようにと説明した。「ザ・マジオ」は全9回配信された。視聴回数は、1回目（5月19日）323回、2回目（5月26日）336回、3回目（6月2日）333回、4回目（6月9日）394回、5回目（6月18日）225回、6回目（6月23日）238回、7回目（7月1日）181回、8回目（7月7日）189回、9回目（7月14日）176回であった。

V おわりに

本資料では2021年度の基礎ゼミⅠの授業実践を紹介した。2022年度も2021年度の授業実践を踏襲することとしている。今後も基礎ゼミⅠをよりよいものにしていきたいと考えている。

資料

基礎ゼミⅠの授業実践に関する記事は商学部のウェブサイトに掲載されている¹⁰⁾。



2021.06.16

教育

[[経営学科] 学生ライターによる
授業レポート_経営基礎ゼミナールⅠ (その2_遠隔授業)]

#経営基礎ゼミナールⅠ #経営学科



2021.05.31

教育

[[経営学科] 学生ライターによる
授業レポート_経営基礎ゼミナールⅠ (その1_対面授業)]

#経営基礎ゼミナールⅠ #経営学科

10) 「[[経営学科] 学生ライターによる授業レポート_経営基礎ゼミナールⅠ (その1_対面授業)」商学部ウェブサイト <https://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/news/869/> (2021年12月24日参照)。

「[[経営学科] 学生ライターによる授業レポート_経営基礎ゼミナールⅠ (その2_遠隔授業)」商学部ウェブサイト <https://www.comm.fukuoka-u.ac.jp/news/917/> (2021年12月24日参照)。

謝 辞

株式会社九州博報堂の松本裕介氏，中島淳志氏，増田公祐氏，中村圭氏には「九州博報堂の『クリエイティブ・スタイル』価値の発見とコミュニケーションデザイン」において講師を務めていただきました。福岡大学教育開発支援機構の鈴木学准教授には「レポート改善ワークショップ」において講師を務めていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。